

【実施日】

令和5年4月18日（火）

【学力調査の対象学年・教科】

■小学6年生（国語・算数）

■中学3年生（国語・数学・英語）

小学6年生

全国学力・学習状況調査

平均正答率	国語	算数
市	69.0	65.0
県	69.0	64.0
全国	67.2	62.5

観点別 平均正答率		国語		算数	
		知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
正答率	市	69.3	68.5	69.5	59.7
	県	69.2	67.8	68.4	58.7
	全国	68.9	65.5	67.2	56.5

中学3年生

全国学力・学習状況調査

平均正答率	国語	数学	英語
市	71.0	48.0	38.0
県	69.0	49.0	41.0
全国	69.8	51.0	41.0

観点別 平均正答率		国語		数学		英語	
		知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現	知識・技能	思考・判断・表現
正答率	市	74.5	69.1	51.3	42.6	41.9	32.5
	県	69.3	68.1	53.9	39.5	46.3	35.5
	全国	69.4	69.7	55.7	41.6	51.5	38.8

学力調査の概要

(1) 良好な項目

- ◇国語科の「情報の扱い方に関する事項」について、原因と結果など情報と情報との関係を理解する問題について全国平均を上回っている。また「話すこと・聞くこと」について、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え自分の考えをまとめる力について成果が見られる。
- ◇算数科の「データ活用」について、示された表から必要な数を読み取ったり、グラフのどの部分から考えたのかを明らかにして他者に伝えたりすることについて全国平均を上回っている。また「数と計算」について、比例や計算のきまりなど基礎的な知識や計算技能の力がついている。

(2) 課題がある項目

- ◇国語科について、漢字を文の中で正しく使うこと、また、複数の情報を整理して自分の考えをまとめたり、書き表し方を工夫したりすることに課題がある。
- ◇算数科について、具体的な数値が示されていない場面において、必要な情報を見出したり、適当な数値を当てはめたりして考えることに課題がある。

質問紙調査結果の概要

(1) 良好な項目

- ◇「自分の考えを発表する時にはうまく伝わるように、資料や文章、話しの組み立てなどを工夫して発表していた」の項目について、肯定的回答が全国平均を上回っている。
- ◇朝食を毎日食べている児童は、全国平均を上回っている。
- ◇授業の中で、主体的対話的で深い学びに取り組んだ児童は、家庭の社会経済的背景が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

(2) 課題のある項目

- ◇「よくわからなかった点を見直し次の学習につなげている」「授業で学んだことをほかの学習で生かす」の項目について平均を下回っている。
- ◇「勉強は好きか」の項目について、肯定的回答は低いが、「勉強は大切である」「将来役に立つ」と考えている児童は90%以上いる。

具体的な取組

- ◇書いた文章の感想や意見を伝え合い、文章の良いところを見つけるなどの学習活動を充実させる。
- ◇単一の情報のみに基づくのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討する学習活動を仕組む。
- ◇具体的な数値が示されていない場面において、必要な情報を見出したり、適当な数値を上げはめたりして考えることができるように指導する。
- ◇児童の学習状況を單元ごとに見取り、学習内容をしっかり身に付けさせ、「できた」「わかった」を感じさせ「授業が好きになる」児童を育てていく。

学力調査の概要

(1) 良好な項目

- ◇国語科において、事象や行為、心情を表す語句について理解することができており、文脈に即して漢字を正しく書くことについても全国平均を大きく上回っている。また、聞き取ったことを基に自分の考えをまとめることにも成果が見られる。
- ◇数学科「数と式」において、乗法の計算をすることはできている。また、問題場面における考察の対象を明確に捉えることもできている。
- ◇英語科において、日常的な話題について短い文章を正確に聞き取ったり、文と文との関係を正確に読み取ったりすることはできている。また事実と考えを区別して読むことができている。

(2) 課題がある項目

- ◇国語科において、読み手の立場に立ち叙述の仕方などを確かめて文章を整えることについて全国平均より下回っている。
- ◇数学科の「図形」の領域において、条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って読み取ることに課題がある。
- ◇英語科の「書くこと」について、社会的な話題について、自分の考えやその理由などを書くことに課題がある。
- ◇英語科の「話すこと」について、話される内容を理解した上で、自分の考えやその理由をその場で相手に英語で伝えることに課題がある。

質問紙調査結果の概要

(1) 良好な項目

- ◇「自分で計画を立てて家庭学習をしている」の項目において肯定的回答が高くなっている。
- ◇「地域の行事に参加している」の項目において肯定的回答は73%と全国平均の約2倍になっている。
- ◇人の役に立つ人間になりたいと思っている生徒は約95%いる。
- ◇家庭学習において ICT 機器を活用して英語の学習の取り組む頻度の高い生徒の方が、「英語の授業の内容がよくわかる」「英語の勉強は好き」と回答する傾向にある。

(2) 課題がある項目

- ◇「将来の夢や希望を持っている」の項目において、全国平均を下回っている。
- ◇「勉強は好きか」の項目について、肯定的回答は全国平均より低い、「勉強は大切である」「将来役に立つ」と考えている生徒は全国平均より高く90%以上いる。

具体的な取組

- ◇自分の考えが伝わる文章を書くために、考えを支える根拠となる事例を検討し、考えと事例等との関係を明確にして記述できるよう指導する。
- ◇図形の性質を論理的に考察し、表現できるようにするため、証明を振り返り前提や根拠などを整理し考えさせる。
- ◇聞いたり、読んだりしたことについて自分自身の考えを英語で述べる指導や、言語活動と合わせて発話の正確さを高めるための指導を行う。
- ◇家庭学習においても ICT 機器を活用し、英語の音声を聞いたり話す練習をしたりして慣れ親しませる。
- ◇キャリア教育の充実と体験活動を重視した取り組みを行う。